

01 はじめに

1 東区将来ビジョンとは

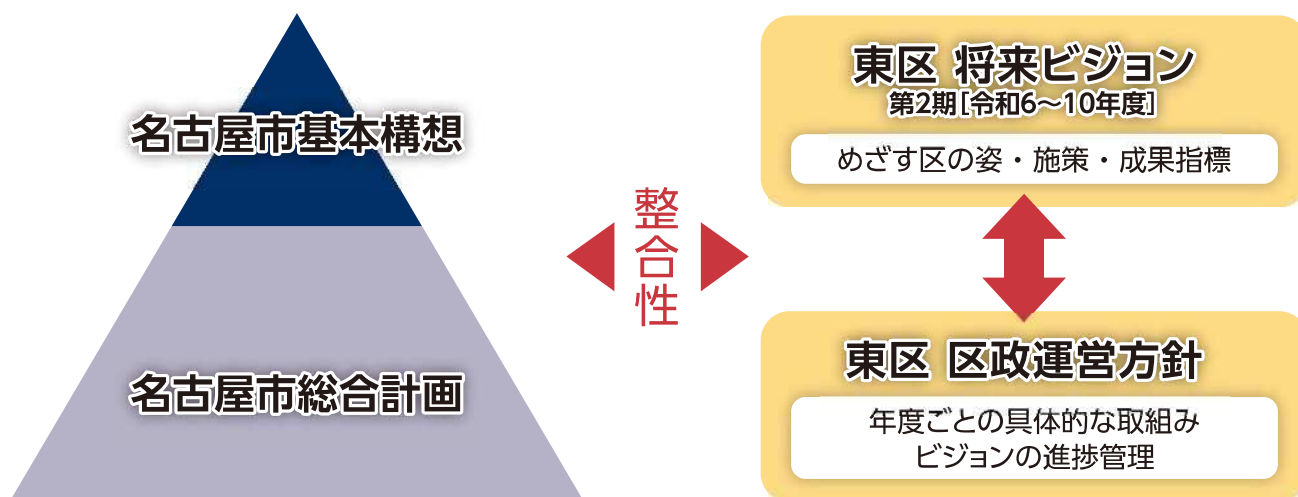
区将来ビジョンとは、区の現状や区を取り巻く社会状況の変化を踏まえ、めざす区の姿を明らかにし、その実現に向けた中長期の取組みを体系化するものです。

令和2年度に第1期東区将来ビジョン(令和2～5年度)を策定し、様々な施策に取り組んでまいりましたが、その後の社会状況等の変化等を踏まえ、このたび、第2期東区将来ビジョン(令和6～10年度)を策定しました。めざす区の姿の実現に向け、引き続き、警察署・消防署等の区内官公署とともに取り組んでまいります。

2 名古屋市総合計画等との関係

市政運営の指導理念である「名古屋市基本構想」のもと、名古屋市がめざす都市像などを「長期的展望に立ったまちづくり」として示し、その実現のために必要な施策・事業を総合的・体系的に取りまとめたものが「名古屋市総合計画」です。東区将来ビジョンはこの計画と整合性をはかり策定しました。

また、区政運営方針において、年度ごとの具体的な取組みを示し、ビジョンの進捗管理を行ってまいります。



3 区の特徴

東区は、桜通・国道41号・19号等の主要幹線道路、地下鉄東山線・名城線・桜通線、JR中央本線、名鉄瀬戸線、全国で初めて中央走行方式が採用された基幹バスとガイドウェイバスシステムを導入したゆとりーとライン等の交通機関を持ち、快適な居住性を誇っています。西南部には、錦通・桜通を中心として中区とともに商業ビジネス地域を形成し、経済活動の拠点としての役割を担っています。また、中心部はおおむね閑静な住宅地、東部には多数の教育施設があり、区域の広範囲で高層マンションが立ち並んでいます。

人々の交流拠点

区の東部には、バンテリンドームナゴヤや文化小劇場・図書館・スポーツセンター等の複合施設「カルポート東」などが、西部にはオアシス21、愛知芸術文化センターなどがあり、人々が集う交流の拠点になっています。

✿ 近代化の足跡の残るまち

名古屋城から徳川園に至るエリアは「文化のみち」と名付けられ、名古屋の近代化の歩みを伝える多くの建物などの貴重な歴史遺産が残されており、建築遺産の保存・活用が進められています。中でも、白壁・主税・槇木地区は大正から昭和初期を中心とした近代的な洋風建築が集まり、今も当時の面影を残すことから、市の町並み保存地区に指定されています。



名古屋市市政資料館



文化のみち二葉館



徳川園

✿ 伝統の山車と天王祭

筒井町と出来町には5輦の山車があり、江戸時代から続く山車まつりが地域の方に受け継がれ、市の無形民俗文化財に指定されています。それぞれの山車に受け継がれてきた華やかな人形からくりやお囃子は、毎年6月に行われる天王祭、徳川園山車揃えや10月の名古屋まつり、区民まつりなどで多くの人々を魅了し、楽しませてくれています。



筒井町 **神皇車**



筒井町 **湯取車**



出来町 **鹿子神車**



出来町 **河水車**



出来町 **王羲之車**

✿ 高校生・学生の多いまち

東区は、名古屋市内でも古くから文教地区として知られています。令和5年5月1日時点で、区内には公立私立あわせて高等学校が8校(通信制を除く。)あり、そこに通学する高校生は9,148人にもなります。これは16区内で2番目に多い数です。このほか、大学や専修学校が多くあり、たくさんの高校生・大学生等が東区に通学しています。

✿ 人口が増加するまち

令和5年10月1日現在、名古屋市の人口は2,326,683人で、令和2年国勢調査(確定値)と比較すると5,493人の減少でした。一方、東区の人口は2,319人の増加で86,711人でした。なお、令和4年10月から令和5年9月までの1年間の転入総数は8,784人、転出総数は7,720人であり、1,064人の転入超過でした。

名古屋市の人口は、令和2年まで24年連続で増加していましたが、令和3年には減少に転じており、名古屋市将来人口推計(※)によっても令和2年をピークに減少が見込まれています。そのため、多くの区で人口が既に減少している又は今後減少が見込まれていますが、東区の人口は令和5年まで26年連続で増加しており、今後も増加すると見込まれています。

※令和4年度を基準時点とした令和22年までの人口等の推計

4 区の現状や区を取り巻く社会状況

❖ 自然災害への懸念

地震については、駿河湾以西の太平洋岸沖合にある南海トラフを震源とする大規模な地震（以下「南海トラフ地震」という。）の発生確率が今後30年以内で70～80%（40年以内で90%程度）と切迫度を増しており、また、風水害についても、平成30年7月豪雨や令和元年東日本台風、令和2年7月豪雨など、記録的な大雨による甚大かつ広域的な災害が全国各地で発生しています。自然災害時に必要な支援を受けられず孤立する方が発生しないよう、支援が必要な方への配慮が必要です。

❖ 地域コミュニティの希薄化

少子高齢化の進展やライフスタイル・地域を取り巻く環境の変化により、地域活動の担い手不足がますます深刻になっています。東区の町内会・自治会への加入率は平成22年度には80.4%でしたが、令和4年度には65.2%と大幅に減少しています。

新型コロナウイルス感染症の発生により、人と人とのつながりが薄れたり、イベントや行事などの地域活動が中止・縮小する時期がありました。地域コミュニティの必要性を改めて認識し、地域活動への参加を促していく必要があります。

また、外国人市民が増加しており、地域における多文化共生の理解促進が必要です。



❖ 子どもや福祉に関する問題の複雑化

国において令和5年4月にこども家庭庁が設置され、各市区町村においても子育て世帯を包括的に支援する「こども家庭センター」の設置が求められています。

また、介護・障害・子ども・生活困窮といった分野別の支援体制では対応しきれないような「地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズ」に対応する「重層的支援体制」の整備が求められています。



❖ 区役所庁舎の老朽化

東区役所庁舎は昭和45年10月の竣工から53年（令和5年10月時点）が経過し著しく老朽化していることから、東区役所庁舎を利用される皆さまが安心・安全で快適な行政サービスを受けられるように庁舎整備の検討を進めていく必要があります。

❖ DX(デジタルトランスフォーメーション)推進の必要性

新型コロナウイルス感染症等を契機に様々な分野でのICT（情報通信技術）を活用したデジタル化が加速的に進んでいます。

行政においても、制度や組織の在り方等をデジタル化に合わせて変革していく、DXが求められており、名古屋市でもデジタルの活用により、市民一人ひとりにより適した市民サービスを提供するためにDXの推進が必要です。



5 めざす区の姿

区の現状や区を取り巻く社会状況の変化を踏まえ、3つの区政運営の手法を用いて、3つのまちの姿をめざし施策を展開していきます。

—— 東区のめざす区の姿 ——



★SDGs(持続可能な開発目標)について

SDGsは、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現をめざす世界共通の目標であり、地域の持続的な発展にとっても大変重要な目標です。

名古屋市は、令和元年に国からSDGs未来都市(SDGsの達成に向けた優れた取組みを提案する都市)に選定され、誰一人取り残さない、経済・社会・環境が調和した持続可能で強靱なまちの実現に向け、旗振り役となって市民、企業、NPOなど多様な主体を巻き込みながら、社会全体で取組みを進めています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

